

嘉田由紀子 参議院議員、元滋賀県知事

2022年9月取材

嘉田氏は全国で初めて滋賀県で「流域治水」を条例として成立させた（平成28年）。

国は令和2年、「これまでのダムや堤防に頼る治水では洪水は防げない」として流域全体で水を受け止める「流域治水」へと転換し、推進している。

1, 行政の責任について

「言うまでもなく第一の責務は人の命を守ることです。激甚化する気候変動で、これまで経験しなかったような豪雨が襲ってくる。2020年に球磨川流域を襲った雨は、千年に一度の規模に迫るものでした。

そんな時代に行うべきは、やはり上流から下流まで、広く流域全体を見渡した流域治水です。上流で水の流出量が増えれば必ず下流にツケがいきます。都市計画、河川や下水道の整備、グリーンインフラ、住民の知恵などあらゆる手段を総動員し、いかにして流域全体で水害のリスクを分散させ、被害を最小化するか。そのシステムを考え、実行するのが行政の仕事です」

2, 海老川を視察しての感想（2022年8月2日）

海老川下流の細さに驚き、次のようにコメントした。

「いくつもの支川が、あんなに細い海老川に流れ込んでいく。下流には人口密集地が広がっていますから、溢れたらそこが被災する。だから上流を全面盛り土で埋め立て、コンクリートで固めるのは非常に危険です。

ここはまちがいなく流域治水が必要な場所です。もし開発するなら、一部を掘り下げて川の水を逃がす場所を作ったり、高床式建築を取り入れたり、木々を植えて土地の保水力を高めるなどすれば、治水安全度が上がるのではないのでしょうか。そしてそれをやるのは船橋市と、海老川の河川管理者である千葉県です」